

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-178997

(P2005-178997A)

(43) 公開日 平成17年7月7日(2005.7.7)

(51) Int.Cl.⁷**B 6 6 B 7/00****B 6 6 B 7/02**

F I

B 6 6 B 7/00

B 6 6 B 7/02

J

J

テーマコード (参考)

3 F 3 0 5

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2003-422435 (P2003-422435)

(22) 出願日 平成15年12月19日 (2003.12.19)

(71) 出願人 591020353

オーチス エレベータ カンパニー

O T I S E L E V A T O R C O M P A N Y

アメリカ合衆国、コネチカット、ファーマ
ントン、ファーム スプリングス 10

(74) 代理人 100096459

弁理士 橋本 剛

(74) 代理人 100086232

弁理士 小林 博通

(74) 代理人 100092613

弁理士 富岡 潔

最終頁に続く

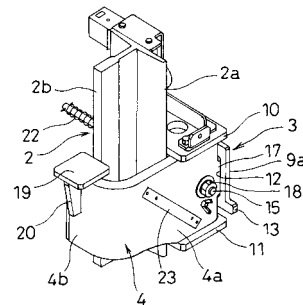
(54) 【発明の名称】 乗りかごの落下防止装置

(57) 【要約】

【課題】 不使用時における支持部材の不用意な回動を防止と、使用時における乗りかごに対する支持剛性の向上を図ることのできる落下防止装置を提供する。

【解決手段】 ガイドレール2の基部2 a背面に固定されたほぼ矩形筒状の保持部材3は、前記ガイドレールの背面に固定された前端壁6と、上下面にストッパプレート10、11が固定された上下端壁7、8と、後端壁9とを備えている一方、長板状の支持部材4は、基端部4 aが前記上下ストッパプレートの突出した一端部10 a、11 a間に嵌合保持可能に形成されていると共に、該基端部の後端縁に前記嵌合孔12に嵌合可能な突起部17が形成されている。保持部材には、支持部材の基端部に形成された長孔16を介して上下方向から回転自在に支持する支軸15が軸方向へ摺動自在に取り付けられていると共に、支持部材を保持部材側へ引き付けるコイルスプリング22が設けられている。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

昇降路内に立設されて、乗りがごを昇降案内するガイドレールと、該ガイドレールの背面に固定されたほぼ筒状の保持部材と、該保持部材に取り付けられて、前記乗りがごの下部を支持するほぼ長板状の支持部材とを備えた乗りがご落下防止装置であって、

前記保持部材は、少なくとも前記ガイドレールの背面部に固定される前端壁と、該前端壁に対向して配置される後端壁とを備え、前記後端壁のガイドレールの幅方向側の端部に嵌合孔が形成されていると共に、前記上下にストッパプレートが固定されている一方、

前記支持部材は、基端部が前記上下ストッパプレートの突出した端部間に嵌合保持可能に形成されていると共に、該基端部の後端縁に前記嵌合孔に嵌合可能な突起部が形成され、

前記保持部材には、一端部が前記支持部材の基端部に形成された長孔を介して該支持部材を上下方向から回動自在に支持する支軸が軸方向へ摺動自在に取り付けられていると共に、前記支持部材を前記保持部材側へ引き付けるばね部材が設けられ、

不使用時には、前記支持部材を、前記ばね部材のばね力によって前記保持部材側に引き寄せつつ前記ガイドレールの背後側に配置させる一方、

使用時には、前記支持部材を、ばね部材のばね力に抗して前記保持部材の側部から引き離した状態で前方へ回動させて支持部材の先端部をガイドレールの前方位置に配置させると共に、支持部材の基端部を前記上下ストッパプレートによって挟持状態に支持しつつ前記突起部を前記嵌合孔に嵌合保持させるようにしたことを特徴とする乗りがご落下防止装置。

【請求項 2】

前記支持部材の先端部を、ほぼ L 字形状に折曲形成すると共に、該先端部の内面に、前記支持部材を前記支軸を介してガイドレールの背後側から前方側へ回動させて先端部がガイドレールの前方位置に配置した際に、前記長孔を介して支持部材を後退移動させることにより、前記ガイドレールの先端部に係合する係合部を設けたことを特徴とする請求項 1 に記載の乗りがご落下防止装置。

【請求項 3】

前記支持部材の基端部の外面に、該支持部材を操作する取手部を設けたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の乗りがご落下防止装置。

【請求項 4】

前記支持部材の先端部の側縁に、乗りがごの下面を支持する支持台を設けると共に、前記先端部の外面に、前記支持台を補強する補強部を設けたことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の乗りがご落下防止装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、エレベータの据付作業時やメンテナンス作業時に、乗りがごを作業台とする際に用いられるエレベータの乗りがご落下防止装置に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の従来の乗りがご落下防止装置としては、例えば以下の特許文献 1 に記載されているものが知られている。

【0003】

この乗りがご落下防止装置は、昇降路内に立設されたガイドレールの背面に当接し、このガイドレールに係止される板材と、この板材に設けられ、前記ガイドレールにガイドローラを介して案内される乗りがごの下部を支持する支持部材とを備えている。

【0004】

前記板材には、前記ガイドレールの背面から離れる方向に突出する突出部が一体に形成されていると共に、該突出部に前記支持部材を回動自在に支持するヒンジ部が取り付けら

10

20

30

40

50

れている。

【0005】

前記支持部材は、前記ヒンジ部を介して前記ガイドローラを回避する第1の位置と、前記乗りがごの下部を支持する第2の位置とに回動可能になっている。

【0006】

そして、エレベータの据付作業時などには、作業員が丸棒の操作部材によって支持部材を第2の回動位置に回動操作し、その後、乗りがごを下降させて、支持部材の上面で支持することにより、該乗りがごを作業台として利用するようになっている。

【0007】

一方、据付作業などが終了した場合には、乗りがごを上昇させた状態で、前記操作部材によって支持部材を前記第1の位置に回動操作することによって、該支持部材を待機位置に保持するようになっている。

【特許文献1】特許第3209931号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

しかしながら、かかる従来の乗りがご落下防止装置にあっては、支持部材が第1の位置に保持されている場合、つまり待機状態の位置になっている場合には、突起部から離れて単に板材の側部側から開いたフリーな状態で位置しているにすぎない。このため、乗りがごの昇降移動時においてガイドレールに発生する振動などによって支持部材が不用意に第2の位置に回動してしまうおそれがある。

【0009】

また、第2の位置における支持部材は、基端部側が単に突起部の下部に支持されているだけであるから、乗りがごに対する支持強度が不十分になり、安定した支持が得られないおそれがある。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明は、前記従来の乗りがご落下防止装置の実情に鑑みて案出されたもので、請求項1記載の発明は、とりわけ、前記保持部材は、少なくとも前記ガイドレールの背面部に固定される前端壁と、該前端壁に対向して配置される後端壁とを備え、前記後端壁のガイドレールの幅方向側の端部に嵌合孔が形成されていると共に、前記上下にストッパプレートが固定されている一方、前記支持部材は、基端部が前記上下ストッパプレートの突出した端部間に嵌合保持可能に形成されていると共に、該基端部の後端縁に前記嵌合孔に嵌合可能な突起部が形成されている。また、前記保持部材には、一端部が前記支持部材の基端部に形成された長孔を介して該支持部材を上下方向から回動自在に支持する支軸が軸方向へ摺動自在に取り付けられていると共に、前記支持部材を前記保持部材側へ引き付けるばね部材が設けられている。

【0011】

そして、不使用時には、前記支持部材を、前記ばね部材のばね力によって前記保持部材側に引き寄せつつ前記ガイドレールの背後側に配置させる一方、使用時には、前記支持部材を、ばね部材のばね力に抗して前記保持部材の側部から引き離した状態で前方へ回動させて支持部材の先端部をガイドレールの前方位置に配置させるとともに、支持部材の基端部を前記上下ストッパプレートによって挟持状態に支持しつつ前記突起部を前記嵌合孔に嵌合保持させるようにしたことを特徴としている。

【0012】

この発明によれば、エレベータの据付作業時やメンテナンス作業時を行わない場合は、前記支持部材は、ガイドレールの背後側でその基端部がばね部材のばね力によって保持部材側に強制的に押付けられている。

【0013】

したがって、支持部材は、かかる不使用時には、ガイドレールの背後側に安定に保持さ

れることになることから、ガイドレールの前方側へ不用意に回動することなくなる。

【0014】

また、エレベータのメンテナンス作業時などには、支持部材をばね部材のばね力に抗して保持部材から引き離す方向へ引っ張り、最大に引き離した位置で支軸を中心に先端部側を前方へ回動させる。そして、該先端部を所定の回動位置まで回動させて、基端部側が上下のストッパプレートの各端部間に位置すると、該基端部がばね部材のばね力によって保持部材側へ引き寄せられながら前記各端部間に自動的に嵌合される。その後、前記基端部が嵌合された状態で、支持部材を長孔を介して支軸に沿ってそのまま後方へ押し戻すと、基端部の突起部が嵌合孔に嵌合する。

【0015】

このため、支持部材は、その基端部が両ストッパプレートに挟持状態に支持されると共に、突起部を介して嵌合孔の孔縁でも支持されることになることから、その後、下降して支持部材の先端部上面に載置された乗りがこの支持剛性が高くなり、前記乗りがこの安定かつ強固に支持することが可能になる。

【0016】

請求項2に記載の発明は、前記支持部材の先端部をほぼL字形状に折曲形成すると共に、該先端部の内面に、前記支持部材を前記支軸を介してガイドレールの背後側から前方側へ回動させて先端部がガイドレールの前方位置に配置した際に、前記長孔を介して支持部材を後退移動させることにより、前記ガイドレールの先端部に係合する係合部を設けたことを特徴としている。

【0017】

請求項3に記載の発明は、前記支持部材の基端部の外面に、該支持部材を操作する取手部を設けたことを特徴としている。

【0018】

請求項4に記載の発明は、前記支持部材の先端部の側縁に、乗りがこの下面を支持する支持台を設けると共に、先端部の外面に、前記支持台を補強する補強部を設けたことを特徴としている。

【発明の効果】

【0019】

以上の説明で明らかなように、請求項1に記載の発明によれば、エレベータの据付作業やメンテナンス作業を行わない場合は、前記支持部材をばね部材のばね力によってガイドレールの背後側に安定に保持することができることから、支持部材がガイドレールの前方側へ不用意に回動することなくなる。

【0020】

また、エレベータのメンテナンス作業時などには、支持部材はばね部材を介して上下のストッパプレートの各端部間に強制的に挟持状態に嵌合保持されると共に、基端部の突起部が嵌合孔に嵌合されるため、支持部材の乗りがこの支持剛性が高くなり、該乗りがこの安定かつ強固に支持することが可能になる。

【0021】

請求項2に記載の発明によれば、使用時には、支持部材の係合部がガイドレールの先端部に係合することから、支持部材の基端部と先端部の両方がガイドレールに結合されるため、支持部材の支持剛性がさらに向上して、乗りがこのより安定して支持することができ、安全性が高くなる。

【0022】

請求項3に記載の発明によれば、取手部によって支持部材をばね力に抗した引き離し作業や回動操作が容易になる。

【0023】

請求項4に記載の発明によれば、支持台と補強部によって乗りがこのさらに安定支持することが可能になる。

【発明を実施するための最良の形態】

10

20

30

40

50

【0024】

以下、本発明に係る乗りかご落下防止装置の一実施形態を図面に基づいて詳述する。

【0025】

すなわち、この乗りかご落下防止装置は、図1～図4に示すように、昇降路1内に立設されて、図外の乗りかごを昇降案内する一对のガイドレール2と、該ガイドレール2の背面側の上下方向の所定位置に固定された保持部材3と、該保持部材3に取り付けられて、前記乗りかごの下部を支持するほぼ長板状の支持部材4とを備えている。

【0026】

前記ガイドレール2は、一般的な構造であって、昇降路1内に固定された図外の梁部材に固定されるほぼ平坦長板状の基部2aと、該基部2aの前端面の幅方向のほぼ中央に一体に設けられて、乗りかごに取り付けられたガイドローラを介して乗りかごを昇降案内するレール部2bとから構成されている。

【0027】

前記保持部材3は、図5～図7にも示すように、ほぼ矩形筒状に形成され、前記ガイドレール2の基部2aの背面に4本のボルト5によって固定された前端壁6と、一側縁の上下端が前端壁6の上下端縁に一体に結合された上端壁7及び下端壁8と、該上下端壁7、8の他側縁に結合され、前端壁6と対向する後端壁9とから構成されている。

【0028】

前記前端壁6は、その長さLがガイドレール2の基部2aの幅とほぼ同じ長さに設定され、4隅には前記ボルト5が螺着する雌ねじ孔6aが切られている。

【0029】

前記上下端壁7、8は、その長さが前端壁6の長さよりも若干短く設定されて、所定位置に雌ねじ孔7a、8aが切られている。と共に、それぞれの上下面には、ストッパプレート10、11が前記雌ねじ孔7a、8aに螺着したボルト24によって固定されている。

【0030】

前記後端壁9は、両端部にガイドレール2の基部2aの幅長さよりも長く設定された延長部9a、9aが連続一体に設けられていると共に、該各延長部9a、9aには上下方向に細長い矩形状の嵌合孔12、12がそれぞれ貫通形成されている。また、両端部の延長部9a、9a近傍には、雌ねじ孔9b、9bが切られていると共に、各延長部9a、9aの下部外端には、突部13、13が一体に設けられている。

【0031】

前記ストッパプレート10、11は、図7に示すように、その長さが前端壁6の長さL（ガイドレール2の基部2aの幅）よりも長く設定されて、前記延長部9a、9aの長さとはほぼ同一長さになっていると共に、該両方側の端部10a、10b、11a、11b間の隙間長さHが前記支持部材4の幅よりも若干大きく設定されている。

【0032】

また、前記保持部材3の内部には、図10、図11に示すように、ブラケット14が前記雌ねじ孔9b、9bを介してボルト固定されており、該ブラケット14には、保持部材3の内部を貫通配置された支軸15が軸方向へ摺動自在に支持されている。

【0033】

前記支持部材4は、図8及び図9にも示すように、金属材料によってほぼ長板状に形成され、前記上下ストッパプレート10、11の各一端部10a、11a間に適宜挟持される基端部4aと、該基端部4aの先端側に一体に有し、ほぼL字形状折曲された先端部4bとを備えている。

【0034】

前記基端部4aは、その幅方向のほぼ中央位置に、前記支軸15が挿通する長孔16が長手方向に沿って形成されていると共に、外端面には支持部材4の使用時において前記嵌合孔12に嵌合する細長い突起部17が一体に設けられており、前記支持部材4全体が前記長孔16に挿通した支軸15とこの先端に螺着したナット18によって回動自在に支持

10

20

30

40

50

されている。

【0035】

前記先端部4bは、先端の一側縁（上端縁）に乗りかごの底面側を支持するほぼ矩形板状の支持台19が固定されていると共に、外面には支持台19の下面を支持するほぼ三角形の補強部20が固定されている。また、該補強部20の反対側の内面には、支持部材4の使用時に前記ガイドレール2のレール部2bの先端に係合する係合部21が固定されている。この係合部21は、先端部4bの内面に上下方向に沿って配置され、ガイドレール2のレール部2bに係合する長溝状の係合溝21aが形成されている。

【0036】

また、この支持部材4は、図1、図2に示すように、前記支軸15の外周に嵌挿したばね部材であるコイルスプリング22のばね力によって保持部材3の側部側に引き付けられていると共に、基端部4aの外面に該支持部材4の回転などを操作する取手部23が固定されている。

【0037】

以下、前記構成を備えた乗りかご落下防止装置の作用について説明する。

【0038】

まず、エレベータの据付作業時やメンテナンス作業時を行わない場合においては、図1及び図2に示すように、前記支持部材4は、その基端部4aがコイルスプリング22のばね力によって保持部材3の側部側に強制的に押付けられてガイドレール2の基部2aの側部と背面側に配置される。

【0039】

すなわち、支持部材4の基端部4a側は、支軸15の軸方向に沿って保持部材3の側部側に引き付けられていると共に、先端部4b側は、その折曲形状によって保持部材3の側部から上側ストッパプレート10の上方位置に当接保持されている。

【0040】

したがって、支持部材4は、かかる不使用時には、コイルスプリング22のばね力によってガイドレール2の基部2aの側部及び背後側に安定に保持されることになることから、ガイドレール2の前方側へ不用意に回転することなくなる。

【0041】

一方、エレベータのメンテナンス作業を行う場合には、支持部材4を図1の位置から作業者が取手部23を把持しながら図1の矢印方向へ引っ張る。つまり、コイルスプリング22のばね力に抗して支軸15と一緒に保持部材3から引き離す方向へ引っ張り、最大に引き離れた位置で支軸15を中心に先端部4b側を上方位置から手前前方へ回転させる。

【0042】

そして、該先端部4bを所定の回転位置まで回転させて、基端部4a側が上下のストッパプレート10、11の各端部10a、11a間に位置すると、図3及び図4に示すように、基端部4aがコイルスプリング22のばね力によって保持部材3側へ引き寄せられながら前記各端部10a、11a間に自動的に嵌合される。

【0043】

その後、図10及び図11に示すように、前記基端部4aが嵌合された状態で、支持部材3を支軸15を介して長孔16に沿ってそのまま後方へ押し戻すと、基端部4aの突起部17が延長部9aの嵌合孔12に嵌合すると共に、係合部19の係合溝19aがガイドレール2のレール部2bの先端部に係合する。

【0044】

このため、支持部材4は、その基端部4aが両ストッパプレート10、11に挟持状態に支持されると共に、基端部4aの後端部も突起部17を介して嵌合孔12の孔縁でも支持されることになる。このため、その後下降して支持部材4の先端部4bの支持台19上面に載置された乗りかごに対する支持剛性が高くなり、前記乗りかごを安定かつ強固に支持することが可能になる。

10

20

30

40

50

【0045】

特に、係合部19とガイドレール2との係合によって支持部材4はその支持剛性がさらに向上して、乗りかごをより安定して支持することができ、安全性が高くなる。

【0046】

また、取手部23によって支持部材4をコイルスプリング22のばね力に抗した引き離し作業や回動操作が容易になる。

【0047】

さらに、支持台19と補強部20によって乗りかごをさらに安定支持することが可能になる。

【0048】

本発明は、前記実施形態の構成に限定されるものではなく、例えば、支持部材4を保持部材3の反対側の側部へ配置することも可能であり、この場合は支軸15などを反対に取り付けられれば良く、全体のレイアウトを自由に変更することができる。

【図面の簡単な説明】

【0049】

【図1】本発明の一実施形態にかかる乗りかご落下防止装置の不使用时における正面側斜視図である。

【図2】同乗りかご落下防止装置の不使用时における背面側斜視図である。

【図3】同乗りかご落下防止装置の使用時における正面側斜視図である。

【図4】同乗りかご落下防止装置の使用時における背面側斜視図である。

【図5】本実施形態に供される保持部材を示す正面側斜視図である。

【図6】本実施形態に供される保持部材を示す背面側斜視図である。

【図7】同保持部材に上下ストッパプレートを固定した状態を示す斜視図である。

【図8】本実施形態に供される支持部材の斜視図である。

【図9】同支持部材の斜視図である。

【図10】本実施形態の作用を説明する平面図である。

【図11】本実施形態の作用を説明する平面図である。

【符号の説明】

【0050】

1…昇降路

2…ガイドレール

3…保持部材

4…支持部材

6…前端壁

7・8…上下端壁

9…後端壁

10・11…上下ストッパプレート

12…嵌合孔

15…支軸

16…長孔

17…突起部

19…支持台

20…補強部

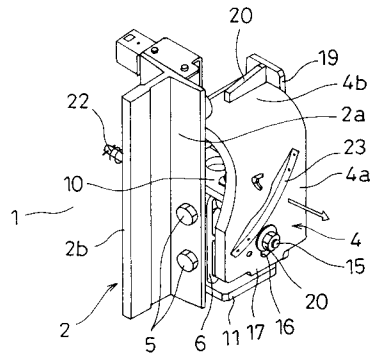
10

20

30

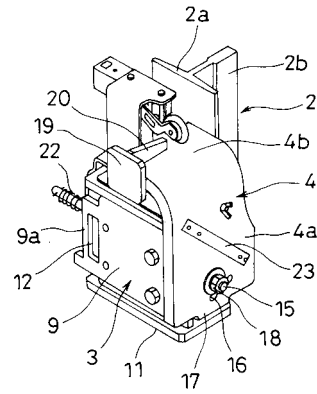
40

【図 1】

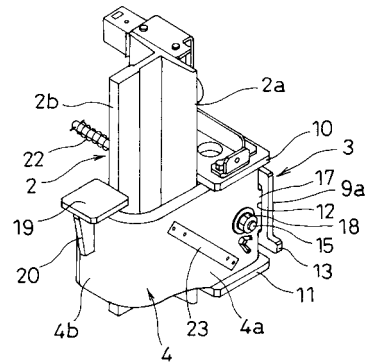


- 1…昇降路
 2…ガイドレール
 3…保持部材
 4…支持部材
 6…前端壁
 7・8…上下端壁
 9…後端壁
 10・11…上下ストッパプレート
 12…嵌合孔
 15…支軸
 16…長孔
 17…突起部
 19…支持台
 20…補強部

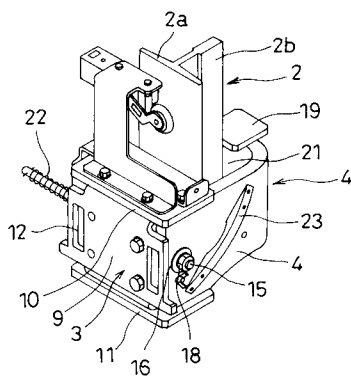
【図 2】



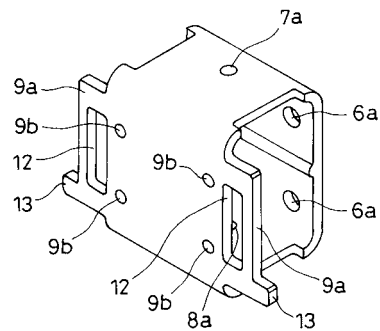
【図 3】



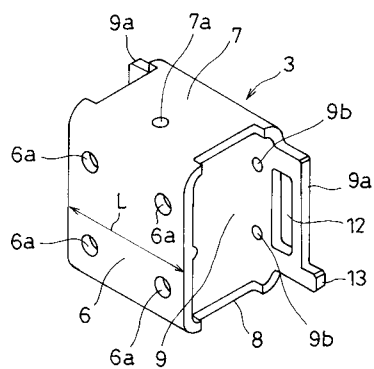
【図 4】



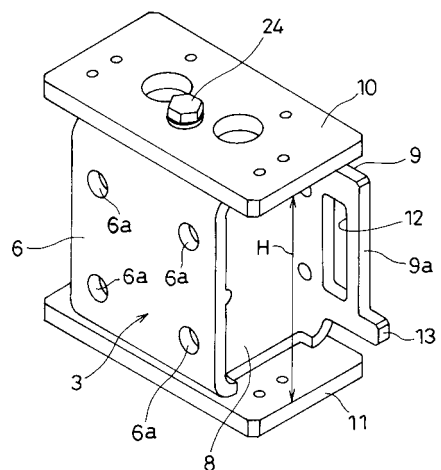
【図 6】



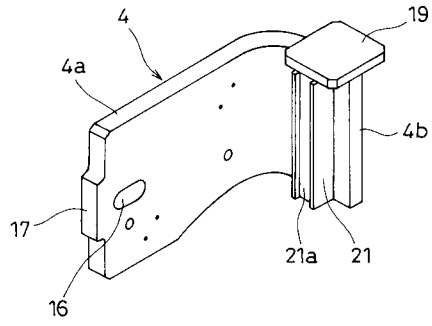
【図 5】



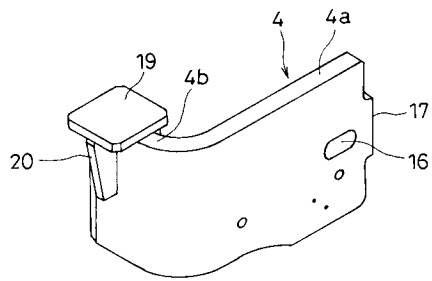
【図 7】



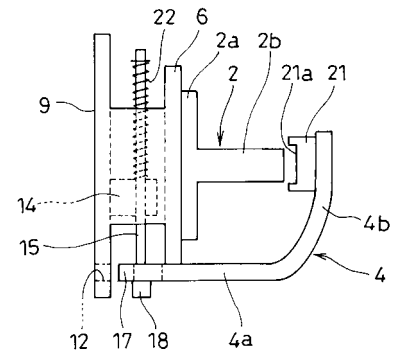
【図 8】



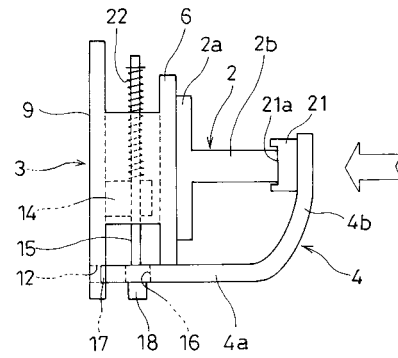
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(72)発明者 田中 崇

東京都中央区晴海一丁目8番10号 晴海アイランド トリトンスクエアX棟12階 日本オーチ
ス・エレベータ株式会社内

(72)発明者 大豊 浩史

東京都中央区晴海一丁目8番10号 晴海アイランド トリトンスクエアX棟12階 日本オーチ
ス・エレベータ株式会社内

Fターム(参考) 3F305 BD04 DA05 DA21